



ふしこ

ホームページアドレス <http://www.fushiko-e.sapporo-c.ed.jp/>



札幌市立伏古小学校

学校だより

特別号

令和7年(2025年)

12月26日

令和7年度全国学力・学習状況調査結果概要及び改善の方向等について

4月に行いました6年生対象の全国学力調査の結果より、本校の調査における概要と課題・改善の方向についてお知らせいたします。

【国語科】

本校の概要	今回の調査における課題	改善の方向
<p>【領域】 〔思考力、判断力、表現力等〕</p> <p>「話すこと・聞くこと」</p> <ul style="list-style-type: none">目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関連付けたりして、伝え合う内容を検討することは全国平均より下回っている。情報と情報との関連付けの仕方、図などによる語句と語句の関連の表し方を理解し使うことは全国平均より上回っている。話し手の発言の理由を考えることは、全国平均より下回っている。 <p>「書くこと」</p> <ul style="list-style-type: none">書く内容の中心を明確にし、文章全体の構成や展開を考えることは、全国平均より下回っている。調べたことを基に詳しく書くことは、全国同様、正答率が低い。 <p>「読むこと」</p> <ul style="list-style-type: none">文章全体の構成を捉え、要旨を把握することは、全国平均を下回っている。目的に応じ、文章と図表とを結びつけて必要な情報を見付けたり、集約したりすることは、全国と同様、本校も正答率が低くなっている。 <p>〔知識及び技能〕</p> <p>言葉の特徴や使い方に関する事項</p> <ul style="list-style-type: none">学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことは、全国平均より下回っている。時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くことは全国平均とほぼ同程度であるがやや下回る。 <p>いずれの領域においても、記述式の問題における無回答率は少ないが、条件を満たした記述に至っていないものが多い。</p>	<ul style="list-style-type: none">目的や意図に応じて伝え合う内容を検討すること話し手の考えと比較しながら自分の考えをまとめること内容のまとまりで段落をつくり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること目的や意図に応じて自分の考えが伝わるように詳しく書くこと事実と感想、意見などの関係を叙述を基に捉えて、文章の内容を的確に押さえ読むこと。目的に応じ、文章と図表とを結びつけて必要な情報を見付けたり、集約したりすること	<ul style="list-style-type: none">◎図表やグラフなどを用いて効果的に書く活動の充実<ul style="list-style-type: none">図表やグラフの特徴を知った上で目的に応じて適切な図表やグラフを作成したり、本や文章から引用して用いたりする指導を充実させていく。◎目的や意図に応じて資料を使って話す活動の充実<ul style="list-style-type: none">相手が話した内容と自分の経験や考えとを比較して共通点や相違点を整理したり、共感した内容や納得した事例を取り上げたりして、考えをまとめる場を充実させていく。◎情報を相手に分かりやすく伝えるために記述の仕方を工夫する活動の充実<ul style="list-style-type: none">収集した情報の中から必要な内容を整理して書く活動を充実させていく。◎文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読む活動の充実<ul style="list-style-type: none">何のために、何を知りたいのか、どのような情報が必要なのかなどを明確にした上で、文章に書かれている話題、筆者の考え方とその理由などに注意しながら、表現に即して重要な点を的確に押さえて読む活動を充実させていく。◎意味や使い方を正しく理解し、日常生活で使う活動のさらなる充実<ul style="list-style-type: none">これまで漢字についてただ練習するのではなく、漢字の意味や使い方を調べると言った学習を継続し、さらに積み重ねていく。

【算数科】

本校の概要	今回の調査における課題	改善の方向
<p>【領域】</p> <p>「数と計算」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異分母の分数の加法の計算をすることは、全国平均正答率とほぼ同程度であるがやや上回っている。 ・伴って変わる二つの数量の関係に着目し、問題を解決するために必要な数量を見いだすことは、全国平均正答率とほぼ同程度であるがやや下回っている。 ・知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述することは、全国平均正答率に比べ下回っている。 <p>「図形」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・角の大きさについての理解は、全国平均正答率より上回っている。 ・基本図形に分割することができる図形の面積の求め方を式や言葉を用いて記述することは、全国平均正答率より下回っている。 <p>「測定」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はかりの目盛りを読むことについては、全国平均正答率より下回っている。 <p>「変化と関係」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだすことは、全国平均正答率とほぼ同程度であるがやや下回っている。 ・「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表すことは、全国平均正答率より上回っている。 <p>「データの活用」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・棒グラフから数量を読み取ったり、項目間の関係を読み取ったりすることは、全国平均の正答率より下回っている。 ・目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を記述することについては全国平均正答率より下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●小数・分数の加法について共通する単位をとらえ、記述すること ●数直線上で、1の目盛りに着目し、分数を単位分数の幾つ分として捉えることによる課題がある ●平行四辺形、台形の意味や性質について理解に課題がある ●示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述できること ●はかりの目盛りを読むことに課題がある ●伴って変わる二つの数量の関係に着目し問題を解決するために必要な数量を見いだし、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述することによる課題がある。 ●棒グラフ・帯グラフの数量から大きさを読み取ること ●日常生活の問題を解決するために、必要な数値を選び、その求め方と答えを式や言葉を用いて記述すること 	<ul style="list-style-type: none"> ◎既習と関連づけながら、数と計算の意味や仕組みについての理解が深まる学習活動の充実 ◎テープ図や数直線を用いて倍の意味について「規準量を1としたときに比較量がいくつに当たるか」ととらえ直す活動や、小数を用いた倍の意味について、数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目して考え、表現する活動の充実。 ◎公式を導き出す過程において、図形のどこの長さに着目すると面積を求めることができるのかを考える活動の充実 ◎示された図形の面積の求め方を解釈し、求め方について説明する活動の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・図形の合成や分解など図形の構成についての見方を働きかせ、図形の面積を、既習の求積公式を活用して求め、求め方について説明することができるようにしていく。 ◎基準量と比較量、割合の関係を正しく捉えるために、言葉や図式を関連付けながら数量の関係を考察する活動の充実。その際示された数量の中から、必要なものだけを選択することが大切。 ◎グラフから数量の大きさの関係を読み取る活動の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・資料の中の数量の大きさの関係を読み取るために、目的に応じて、差を求めたり、数直線などを用い、数量の対応関係や大小関係を的確に捉えたりすることができるようにしていく

【 理 科 】

本校の概要	今回の調査における課題	改善の方向
<p>【領域】</p> <p>「エネルギー」を柱とする領域</p> <ul style="list-style-type: none"> 乾電池のつなぎ方については、全国平均正答率よりやや下回っている。 電流がつくる磁力について、電磁石の強さは巻数によって変わることは、全国平均正答率より下回っている。 電気が通る回路のつくり方についての理解は全国平均正答率より下回っている。 <p>「粒子」を柱とする領域</p> <ul style="list-style-type: none"> 「水は、温まると体積が増える」ことを根拠に海面水位が上昇した理由を予想し、表現することは、全国平均を上回っている。 水の温まり方についての観察、実験方法が適切であったかを検討し、表現することについては全国平均の正答率に比べ下回っている。 温度によって水の状態が変化するという知識をもとに水の結晶について考えることは、全国平均より下回っているが、蒸発について考えることは全国平均と同等の正答率である。 <p>「生命」を柱とする領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ヘチマの花のつくりや受粉についての知識理解については、全国平均を下回っている。 顕微鏡の操作、適切な像にするための技能については全国平均正答率より下回っている。 発芽するために必要な条件について実験の条件を制御した解決方法を発送し表現することについては、全国平均正答率と同等である。 <p>「地球」を柱とする領域</p> <ul style="list-style-type: none"> 水の浸み込み方の違いについて、土の量と水の量を正しく設定した実験方法を発想し、表現することについては、全国平均を下回っている。 水の浸み込み方の違いについて結果をもとに結論を導いた理由を表現することは、全国平均正答率より上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 電気を通す物と磁石に引き付けられる物に関する知識を身に付けることに課題がある 電気が通る回路のつくり方に関して理解し、表現することに課題がある 問題を解決するための観察、実験の方法が適切であったかを検討し、表現することに課題がある 花のつくりや受粉についての知識を身に着ける。 顕微鏡を操作し、適切な像にするための技能を身に付けることに課題がある。 種子の発芽の条件について、既習の植物の発芽の条件との差異点や共通点を基に、新たな問題を見いだし、表現することに課題がある 変える条件と変えない条件を整理しながら、量を正しく設定した解決の方法を発想し、表現することに課題がある 	<ul style="list-style-type: none"> 学習したことを、自然の事物・現象に当てはめて捉え直すことができるようとする。 既習の内容を根拠にして、自然の事物・現象について予想し、説明できるようにするために、学習内容を他の学習や生活と関連付けることが大切である。 より妥当な考え方をつくりだすために、様々な場面で解決の方法を改善していく。 科学的に問題を解決するためには、計画した実験方法が予想したことと確かめられるものになっているかを検討して、改善することが大切。例えば「解決の方法を発想する場面」、「実験を行い、その結果や方法を振り返る場面」、「問題に対するまとめを導きだす場面」などが考えられる。 見て、考えて、言葉で表現することを通してより深い理解。観察、実験の結果や結論を、図に整理したり、言葉で説明したりするなど、知識と関係付けて理解を深めることが大切。 考えたことを科学的な言葉を使用して表現する活動の充実を図る。

児童質問調査

全国学力・学習状況調査では、学習意欲や学習環境、生活に関する質問を児童に実施しました。この質問の中から、全国と比較して差異の大きい質問、本校の児童の傾向が顕著に見られる質問について分析しています。

■ 「朝食を毎日食べていますか」 肯定的な回答 83・9% (全国 93・7%)

昨年「札幌市の児童・生徒の健康と食生活に関する調査」においては、75%でした。今年度になり、朝食を摂取する率が増えています。

■ 「毎日同じくらいの時刻に寝ていますか」 肯定的な回答 71・2% (全国 81・8%)

「毎日同じくらいの時刻に起きていますか」肯定的な回答 89・3% (全国 91%)

起床時刻が一定である児童の割合に対して、就寝時刻が一定である児童の割合が少ないということは、バランスが取れていない傾向がみられるということです。睡眠の大切さについては、以前保健だよりに載せております。御家族で話し合われるのもよいのではないかと思います。

■ 「自分には、よいところがあると思いますか」 肯定的な回答 62・5% (全国 87%)

最近行った調査でも、低い数値でした。自己肯定感をあげる取組が重要だと考えます。

関連して、「先生は、あなたの良いところを認めてくれていると思いますか」 76・7% (全国 92・2%)

「将来の夢や目標を持っていますか」 62・5% (全国 83・1%) とありますので、もっとよきを伝える、キャリア教育の充実（いろいろな分野で活躍している方をゲストティーチャーとして呼ぶなど）も考えられます。

■ 「人が困っているときは、進んで助けていますか」 肯定的回答 94・7% (全国 93・7%)

「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」 肯定的回答 95・4% (全国 96・4%)

■ 「あなたの家にはどれくらいの本がありますか」

「～10 冊」 19・6% (14・7%) 「11～25 冊」 14・3% (21・5%) 「26～100 冊」 26・8% (32・3%) 「101～200 冊」 17・9% (16・6%) 「200 冊以上」 34% (27%)

「読書が好きですか」 肯定的回答 69・6% (全国 69・8%)

これについては、全国のクロス分析によると、「家にある本の冊数が多い」「読書が好きである」と回答している児童の方が、教科の平均正答率が高い傾向がみられると出ています。読書に親しむ取り組みを勧めていく必要があると考えます。